

第50回経団連洋上研修 寄港地研修 in 大槌

- 時期： 11月
- 日程： 1日
- 参加人数： 20名

目的：

被災地復興の現場から課題発見力をみがき、課題解決に繋がる事業創造力を身につける。

■ 行程

	時間	行程	備考
初日	9:00 - 10:30	▷ 語り部ガイド	チャーターバス
	10:30 - 11:00	▷ 地元リーダーから学ぶ①	
	11:00 - 12:00	▷ 地元リーダーから学ぶ②	
	12:00 - 14:00	昼食・自由時間	
	14:00 - 15:30	▷ ワークショップ：クロスロード	
	15:30	宿泊先(船) へ	

*経団連洋上研修とは：

企業・団体のリーダーやその候補生を対象に、7日間洋上（クルーズシップ）で行われる研修です。異業種・異職種の間が集まり、マネジメント講座や課題研修がおこなれます。

第50回の今回は、総合テーマを『東北から明日の日本を切り拓く』とし、7日間で1日だけある「寄港地研修」の一部を大槌で行いました。



第50回経団連洋上研修 寄港地研修 in 大槌

研修ハイライト

■地元リーダーから学ぶ①： 被災からの起業、そして挫折

「起業」や「新リーダー」といった側面がとりあげられがちな被災地。しかし華々しい「成功ストーリー」の裏には本当に多くの挫折したプロジェクトがあります。けれど、失敗しても、そこで生き続けざるを得ないことには変わりはなく、だからこそ、そこにリーダーとしての学べることは多々あります。

そこで、被災後、事業を立ち上げ、「成功事例」として注目されていたけれど、現在諸々の事情から、事業を一時中止せざるを得ない状況にある女性と対話しました。

挫折したからこと見えて来たこと、「自ら箱にはいつてしまっていた自分」や失敗して初めて気づいた周りの人の思いや声。そして、町の復興をかけての事業継続への思い。そんな自分の心境の変化を飾らずに語る彼女の言葉に、「何のための事業か」を忘れ、「成功すること」のみを追いかけている自分を内省した参加者も多かったようです。



WSの風景

■地元リーダーから学ぶ②：オモイをカタチに

震災後、NPO法人吉里吉里国を立ち上げた芳賀さんの話を聞きました。

「なぜ仕事をするのか」という思いが明確な芳賀さん。だからこそ、困難なことは沢山あっても、「辞める」という選択肢はないと語りました。自分の仕事に、どこまで「オモイ」を込めているのか。込められているのか。参加者は、普段の自分の仕事との付き合い方を突き詰められたようでした。

■振り返り：

研修最後には、前日までの研修を元に、リーダーとして「持ちかえること」と、今回ガイドとワークショップの一部を担当した大槌町の20歳の青年のために「置いていく言葉」を書き出しました。



参加者の声

- 「リーダーとはこうあるべき」という枠組みに、自分が捕われ過ぎていたと感じた。
(40代 男性)
- 異業種・初対面の人と、課題解決に向けてのワークショップが出来たのが面白かった。自分の発想が偏っていると感じた。
(40代 男性)
- 被災地の課題を考える中で、結論そのものよりも、その過程が大切だと気づいた。いままでは、「正しい結論」を出す事ばかり気にしていたが、これからはその過程を大切にしていきたい。
(50代 男性)